

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

業所番号	3390400046		
法人名	有限会社スマイルケア		
業所名	グループホームゆとり		
所在地	玉野市玉原2丁目17-21		
評価作成日	令和1年9月22日	評価結果	市町村受

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

情報リンク先	
--------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
調査日	令和1年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接の親水公園では四季折々自然に触れ合うことができ、環境に恵まれています。施設内は一人ひとりのスペースがゆったりあり、住む人としての自由が大切にされ、穏やかに共同生活が送れていると思います。スタッフは認知症の人が残された力を発揮しやすいように暮らしを支援しながら笑いの絶えない家庭的な環境で専門的なケアを提供していきたいと思っています。また、重度化しても最後まで看取りを行うケアも積極的に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

少子・高齢化が進み、幼稚園と保育園が統合されこども園に移行し、空き店舗が目立つという状況の中で、理念の「心が躍る誇りある暮らし」の実践に努めています。2ユニット共に清掃が行き届き、食事は利用者の好みを取り入れながら家庭的な味を大切にしています。又、職員の働き方にも心を配り、短時間のパートを組み込みながら職員・パート・看護師で、入居者一人ひとりの個性に添った支援に努め、穏やかで安心した暮らしへの取り組みが窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『心が躍る誇りある暮らし』という理念に沿って年間の個人目標を立てている。年間行事でも理念を踏まえて、利用者様の感動を呼び起こすような努力をしている。	事業所内に理念を掲示し、個人目標を定め心を合わせて実践につなげています。地域密着型サービスの意義をふまえ、事業所の状況変化や現状に即した理念の再考も今後の課題としてとらえています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、ゴミステーションの掃除を行っている。さくら祭りや夏祭りなど行事にも参加している。	ボランティア(アコーディオン・散髪)・見学者の受入れ、町内会行事や清掃活動への参加、外出先での挨拶、地域高齢者の集いで作品展示、認知症キャラバンメイトとしての活動等地域の一員として交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催される研修や勉強会には積極的に参加している。認知症キャラバンメイトとして、地域の方にも、認知症の理解普及に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見には素早く対応し、サービスの向上に活かしている。	民生委員・地域包括支援センター・家族代表が参加し、報告(資料に画像を添付)や意見交換(地域包括からオレオレ詐欺の手口紹介)を行い、スタッフ間での情報共有を図り、サービス向上に活かしています。	会議構成メンバー(利用者・家族・地域代表・民生委員・市職員・地域包括・事業所職員)の参加を働きかけ、テーマを発展させ、事業所を含む地域の課題への取組みに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より、電話やファックスなどで連絡を取り合っている。	電話やファックスでやり取りし、運営推進会議のほか、時には意見交換の機会もあり、事業所の内情を伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月一回の身体拘束適正化委員会を行い身体拘束の有無を確認している。身体拘束に関する研修にも参加して、会議内で情報を共有している。	研修や勉強会、毎月の適正化委員会で確認するとともに、言葉かけや態度など、日常的に気付いたときに注意し合い、身体拘束をしないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉かけ一つから、不適切なケアだと思われた場合は、お互いに注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について理解が足りないスタッフもいるが、施設内には成年後見制度を利用している利用者様もあり、学び合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来所時には声をかけ、気軽に話しやすい雰囲気作りをしている。現在はご家族が意見しやすい関係になっており、要望があれば直ちに反映できるように努力している。	日々のケアの中で利用者とのさりげない会話や気付きを書き留め、家族に会議や行事参加を呼びかけ、来所時には対話を心がけ、意見や要望を表せる機会を設け、スタッフ会議で話し合い、それらを反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は必要であれば全体会議で取り入れ、職員全員で話し合いができるようにしている。	話しやすい雰囲気、日常的にあるいは会議で意見や提案を聞く機会が確保され、今年度、パート職員の時給が上がり、スタッフの増員も決まり、環境整備が進められています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ不足により、過密な勤務体制により日々業務をこなしているという状況になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修には参加できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会がなくなり相互の連携が、不十分である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず事前に訪問し、細かくアセスメントを行っている。本人や家族の思いをしっかりと聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困りごとや苦勞をゆっくり聞いて理解し、事業所としてはどのような対応ができるかを十分に話し合っている。来所時には声をかけ、話しやすい雰囲気作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントしてきたことを素早くまとめてあらかじめスタッフ全員で情報を共有することにより、入所と同時に必要なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活のあらゆる場面で、利用者の得意とすることを活かしており、誇りある生活に向けての支援を行っている。利用者同士も支え合う関係ができ、馴染みの関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も行事に参加できるように案内をし、共に支える機会をふやすようにしている。日頃の様子や状態をこまめに報告・相談するなど、つながりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所時『またいつでも来て下さい』とアピール、雰囲気作りや声掛けをしている。	市内在住の利用者が多く、友人・知人・家族・古い付き合いの散髪屋さんなどの来所、行事や外出先での顔見知りとの出会いに加え、事業所内での馴染みの関係も築かれてきています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、皆で楽しく過ごせる時間を作ったりと、職員が利用者間の調整役になって、笑いの時間が増えるよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合には病院にそれまでの生活状況についての情報提供を行う。退所になった利用者についても病院に見舞ったり、ケアマネジャーにその後の様子を尋ねたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でそれとなく暮らしに対する希望を聞き出すようにしている。さりげなく寄り添い、見えないシグナルを見落とさないようにしている。	生活歴や趣味・嗜好を把握し、日々の行動・会話・表情などから汲み取り、記録に残して本人本位に検討し、スタッフ間で共有しながらその人らしい暮らしができるように支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴を把握できるよう、アセスメント時には注意を払っている。また、スタッフは必ずフェイスシート、アセスメントシートに目を通し、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌を充実させたり、個人記録を叙述的な記録にしたりの努力をしている。これらの記録物にはスタッフ全員が目を通し、利用者の状態把握に努めている。申し送りの徹底により、利用者の変化を共有する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	細かいケアのあり方については、スタッフ間の連絡ノートを作り、日々反映させている。問題があればその都度カンファレンスを開き、プランに活かすようにしている。	対話や詳細な記録・連絡ノートを参考に、定期的にあるいはミニカンファレンス(夕方や夜に集まる)で話し合い、本人がより良く暮らすために、必要な情報を組み込みながら現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルへの記録は、本人の様子がよく分かるように、本人の言葉を交えて叙述的に行い日々の変化を共有している。管理者やケアマネジャーが先頭に立って導くように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば、本人や家族の好みの服を選ぶこと、嗜好に合わせた食事、体調に合わせた食事形態、入浴時間、外出支援など柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年の地域の桜祭りに参加、舞台の上により、歌と体操を披露した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医への受診を、奨励している。職員が同行し、適切な医療が受けられるように配慮する。	市民病院が協力医療機関となっており、提携医の定期的な往診や緊急時の対応もあり、従来のかかりつけ医への受診も継続されており、納得が得られた適切な医療が受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護師とは常に連絡がとれる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は日頃の様子や介護状況など、細かい状況提供を行っている。また、定期的に見舞って入院後の様子を把握したり、家族とも連絡を密にして、退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、早いうちに本人・家族の意向を確認するようにしている。また、事業所としてできないことの説明も行っている。	看取り指針を定めており、提携医の対応や看護師の配置もあり、本人・家族の意向をふまえ、関係者が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように、随時意向を確認しながら取り組んでいます。(泊まり込む家族もおられるようです。)	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはマニュアルをつくり、周知徹底を図っている。救命ドリルを購入して、練習できる体制にした。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は避難訓練、災害対策についても、座学にて実施して、災害に対する心構えを身につけるようにしている。	年2回の避難訓練、さらに年2回の災害に向けての勉強会を実施しています。停電で電磁調理器が使用できず困った経験があり、地震・豪雨・土砂崩れなどへの対応や備蓄についても話し合っています。	この度の強風・豪雨・河川の氾濫・土砂崩れなど想像を絶する災害に言葉もないですが、避難のあり方・情報の収集・協力体制など地域とともに取り組んでいかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の価値観の相違を把握した上で、「さりげないケア」を心掛けている。	その人らしい尊厳ある姿や個性を大切にし、日々のケアのなかで、趣味・嗜好・特技・楽しみなどへの支援を心がけており、自己決定しやすい言葉かけや丁寧な対応がうかがえます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけを多くし、意思表示ができるように誘導している。言葉で表現できない場合には表情やしぐさで読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日の体調や気持ちに合わせて無理強いすることなく、その人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はできるだけ自分で選んでもらえるように配慮し、着衣や髪の流れ、食べこぼしなどはさりげないフォローをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立にこだわらず、その人その人の好みに合わせて柔軟な対応をしている。食事は一緒に美味しく食べらるよう、楽しい雰囲気作りを大切にしている。	皮むきや味付けなどできることを一緒に行いながら、三度三度手作りし、ユニットごとの週間献立にかかわらず、その日に合わせて柔軟な変更もあり、皆で食卓を囲み、温かくおいしい食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々のinとoutの記録を徹底している。時間にとらわれず、無理なく水分が摂れるように工夫している。ゼリーを常備しておくなど、個々の好みにあわせて工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる人、促しが必要な人、介助が必要な人、本人の能力に応じたケアを行っている。毎食後は無理であるが、夕食後には必ず行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々のパターンの理解に努めている。尿意を訴えられない人はその人のサインを見逃さず誘導し、失敗を減らせるよう努力している。状態に合わせて紙パンツ布パンツに移行している。	排泄パターンを把握して声掛けし、日中はトイレでの排泄を心がけ、おむつの使用を減らし、布パンツに移行した利用者もあり自立に向けた支援と失禁時に保温したタオルを使用するケアも継続されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後にトイレに座る習慣になるよう声掛けや誘導を行うとともに、便秘に良い食材選びにも注意を払っている。便秘の時はトイレに長く座ってもらって排便を促すなどの工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の気分や体調も大切に、湯温や浴槽の好みに応じながら個別援助をしている。	午前中は体操や生活リハビリを取り入れて体を動かし、気温の高井午後からの入浴を心がけています。スロープインバスの設備があり、重度者への対応が可能でゆったりと入浴を楽しむことができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動量を高めていけるように援助を行い、生活リズムを整えるようにしている。室温や布団や体位等にも注意をして心地よく眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容については職員がすぐわかるよう、健康管理ファイルに情報を整理している。服薬時には最後まできちんと確認を行う。誤薬防止のため、二人で目視確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できないことより、できることを探している。個々の力を十分発揮できるよう援助し必ず感謝の言葉を伝えている。毎日の生活の中で自然に役割ができています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者は年々高齢となり体力が低下した為外出できる人も減ってきたが、その日の状態によって施設内ではあるが、違うユニットに行ったりして、気分転換をはかっている。	高齢化や重度化で徐々に外出の機会が減少しているようですが、各種行事や通院、家族との外出、事業所内の移動など工夫を凝らし気分転換を図っています。この日は気候も良く、入浴を急遽散歩に切り替え、車椅子も利用して近くの公園を散策していました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所管理は行っていないが、少額のお金を持って安心している人もある。欲しいものがあれば事業者管理で購入し、まとめて請求する方法をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があれば、ゆっくり会話ができるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁に季節に見合った飾りつけをするなど季節感を取り入れるように、配慮している。採光や室温もこまめに調節している。壁飾りは協力下さるご家族があり、助かっている。	室内は清掃が行き届き、温度・湿度・採光などの環境整備がなされ、利用者の作品(折り紙・習字)や写真、季節飾りが彩りを添えており、ソファや家具の配置を工夫し、居場所を選んで落ち着いて過ごせる工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが落ち着く場所があり、ゆっくりすごしている。その時ときの状況に応じてテーブルの配置や席の並びを変え、不快を軽減して居心地が良いように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毛布や枕などは使い慣れたものを持ってきている人が多く、安心して眠れると思う。ダンスの上に置いた家族の写真をながめて安心する人もある。また、家族が好みの家具を持って来たり、写真を飾ったりしている。	居室は広く明るく、収納スペースも大きく、写真や作品が飾られ、使い慣れた好みのものを持ち込んで配置し、畳の部屋ではこたつやホットカーペットの方もおられ、居心地よく過ごせる工夫がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にも必要に応じてL字バーや滑り止めマットを使用するなど、個々のレベルに合わせた安全の工夫をしている。また、動線には、物を置かない、濡れた床は素早く拭くなど、安全な環境をこころがけている。		